

賀茂縣主だより



発行所
〒603-8047
京都市北区
上賀茂本山339
賀茂別雷神社内

財団法人
賀茂縣主
同族会

新年のご挨拶

理事長 西池成晃

明けましてお目度とうございます。おそろいで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。年初に当たり賀茂の大神様のご神威の弥栄をお祈りしますとともに会員の皆様とご家族のご多幸を心からお祈り申し上げます。

会員の皆様には平素から同族会活動に対しご理解とご支援を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

昨年の活動を振り返り概括しますと、一つ目は三月二十九日に全役員の任期満了をうけ新たに発足しました十五期の役員には三十歳前後のヤングや大学院生も選任しました。若い頭脳と目で同族会の問題点を発見し、ディスカッションをしながら改革と継承の任に当たっていたことが趣旨であります。二つ目は賀茂社の一の鳥居横の芝生に賀茂社と同族会の共同名義で賀茂季鷹顕彰札の建立が出来たことであります。明治維新の国家神道化に従って賀茂社と賀茂氏との歴史的関係すらも段々と遠のき希薄化してきた実態の中でその歯止めとしてこのようななかたちらで顕彰札の建設が出来たことは、会員の皆様が多々

熱望されている賀茂社と同族会の二人三脚論に報いるものでないかと思えます。三つ目は「重文系図」、「社務補任記」、明治初年「上賀茂村絵図」のDVD化です。これによりこれらの文書の取り扱いの容易化、美麗化、鮮明化となり活用しやすくなるものと思えます。とくにヤング層への引きやすさを与えることになり、賀茂氏の一員としての認識高揚に有効なものと思えます。四つ目は関係団体賀茂文化研究会の研究発表会で社家文化の史実を発表するなど連携強化を行うとともに同族会や優れた地元文化の存在をアピールいたしました。

斯様な経過などを踏まえ今年は次のような目標を定め前進と定着を図りたく思っています。

1、平成十九年活動方針

- (1) 会員の結束を強め同族会の主体性を強化する。
- (2) 同族会の組織的能力向上により諸課題を解決する。
- (3) 賀茂社との連携を強化する。
- (4) 公益法人制度改革へ積極的(発展的)に対応する。

2、具体的活動

- (1) 賀茂氏歴史、文化の勉強会を一層拡充する。
- (2) 祖先の事蹟顕在化と地元文化活動の積極的参加による賀茂地域の歴史的文化的価値の向上に資する。
- (3) 社叢神山奉仕祭の深化拡充。
- (4) 在実卿千年祭の斎行(記念事業も含む)



▶ 賀茂別雷神社細殿 平成十九年元旦

(5) IT活用による全員参加型同族会への前進。(特にメールマガジスト、HPの充実によるヤングの吸収)

(6) 賀茂社復活祈事への積極的協力。

(7) 公益法人制度改革に対応する基本方針やシステムの根本的検討。

(8) 賀茂社からの諸課題や要請への積極的、合理的対応と致します。

とくに最近賀茂社では社頭股販に注力され成果も挙げられている実情から我々の奉仕の仕方も協力型のものでなくてはなりません。また第四十二回(平成二十七年)式年遷宮への寄付についても検討を開始しなければなりません。

一昨年に改正された新しい公益法人法では公益性についての要求水準は高く、同族会設立当初の趣旨を保存しつつ公益団体として存続しようとするためには活動内容や形態に根本的変更を加える必要があるようです。同族の皆様とともに検討しながら平成二十年の完全実施を目指し案画してゆきたいと考えています。

最後に皆様のご健勝とご多幸の年でありますことをお祈りいたします。
(以上)



平成十八年十月二十九日

賀茂縣主同族会祖先祭

(敬称略)

浦野 邦夫	堀川 潤	堀川 三恵子	山本 夏雄	芝 澄清	芝 史江	芝 中一	市 真由美	浦野 賀子	西池 みどり	山本 裕司	山本 圭子	堀内 邦保	山本 倫之	中大路 平顕	市 芳明	市 忠顕	西池 隆造	山本 宗尚	山本 浩久	藤木 琢也	堀内 保大	岡本 清信	山本 紀博	西池 氏裕	山田 耕一	藤木 襄治	西池 成俊	鵜飼 登志枝	鵜飼 重夫	山本 宏子	岡本 安正	浦野 邦夫									
藤木 保誠	北大路 澄代	藤木 和子	山本 武久	中大路 三采子	藤木 幸尾	藤木 朝子	藤木 保直	西池 華子	和池 珠子	西池 節子	山本 愛子	藤木 穂子	藤木 伸子	藤木 茂	東辻 保和	東辻 正子	三ツ橋 知子	高田 敏久	藤木 秀昭	西池 恒氏	北大路 みよ子	北大路 葵子	藤木 光男	松田 一雄	藤木 十紫子	中大路 静世	中大路 保利	芝 常清	藤木 文雄	西池 成晃	堀内 保丸	藤木 千夏子	北大路 元顕	藤木 和子	西池 鈴子	江島 直子	竹川 穂子	高田 穰	浦野 有妃子	浦野 光生	山本 氏孝

賀茂社蔵古文書 重文指定を祝す

理事長 西池成晃

京都府教育委員会が文化庁や関係団体の協力を得て賀茂別雷神社に旧蔵している古文書を平成9年度から調査を開始し平成14年度までの約6年間をかけ1万3千6百余通を調査し終え平成15年3月に目録が完成し関係先に配布されました。

またその古文書全部が平成18年3月17日文化審議会からの答申を得て国の重要文化財に指定されました。『経久日記』はこれとは別に平成14年に先発指定されています。

この古文書群は我々の先祖が日々の神勤のなか、また賀茂社に日々関わってきたなかで作られた文書であり先祖の努力の偉大さが偲ばれると同時に末裔同族の皆様とともに心から祝意を表したく思います。

この古文書の保蔵されていた場所と数量は、収蔵庫(478点)、土蔵(11098点)、校倉(1862点)、社務所(201点)、合計13639点となっています。

その内容の分類は、算用状(職中、番衆、御結鎮錢、諸国荘園、算用状一般、請取状・預状一般等4197点)、社司・氏人(1676点)、土地(1040点)、撰末社(939点)、賀茂六郷(862点)、下鴨

(483点)、祭祀神事(413点)、遷宮・造営(330点)、金融(276点)、荘園(260点)、武家書状(164点)、絵図(121点)、日記・記録(104点)、金融(276点)、荘園(260点)、武家書状(164点)、絵図(121点)、日記・記録(104点)、禁制(68点)、その他(2706点)となっている。神勤は勿論のこと神社の管理運営にも相当な力を割かれたのであろうことが推測されます。

これらの古文書は中世以後の賀茂社の姿や当時の社会各方面との関わり的一端を推察しうるものであると思われませんがその全貌を知るうえでは明治維新以後何れかから世に流出した古文書も多くこれの集収補完が必要と考えます。

もし同族のご家庭に古文書がありましたら集積し登録することによって中世以後の賀茂社の姿をさらに明確なものにすることが出来るものと思います。積極的なご協力をお願いします。

賀茂社では平成27年に行われる第42回式年遷宮事業の一環として古文書の収蔵庫と陳列館の建設計画があると仄聞されます。その実現によって古文書の閲覧や研究が容易にすることが期待できます。

今回の古文書調査に当たっては監事北大路元顕氏が終始熱心に協力をなされたことに対し労いと敬意を表したいと思います。

(以上)

葵歌壇

冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

初春

吹く風ものとかになりてあづさ弓春をしらせる鶯の声

立春

鶯の声もみ雪も溶けぬ間にけふ立ちかへる山里の春

七夕舟(受賞)

二星の逢うせうれしき天川八十瀬の海を舟は出てゆく

初秋

つくつくし夕への声もた絶え果てて枕辺涼し秋の初風

朝露

朝なさな露に折れ伏すはき萩分けて妻恋ふ鹿の声哀れなり

人麿(受賞)

万葉の御歌偲べり白菊のゆかしく香る今日の祭りに

パソコンへの誘い (副題:メールからテレビ会議まで)

藤木 顕 通 在葉山

人は誰しも老いると好奇心が薄れ、新しい物に挑戦したい気持ちが薄れる。
なかでもパソコンなどは一見とっつきにくそうだし買ってもお蔵入りされそうな最たるものといわれる。

テレビや誌上ではパソコンに弱い老人たちをデジタルデバイドと声高に揶揄する姿はまるで老境の人々に夢と希望は諦めると云っているようにも聞こえる。

パソコンはハイテク技術の塊だから取り扱いも壊れ易そうに思われがちだが実は大変丈夫、パソコンにコーヒーやお茶をこぼしたり机から床に落とさない限り容易に壊れない。

キーボードの誤操作などでは壊れない、つまり猫ちゃんでも簡単に出来る一方では大変懐の深い知識に挑戦出来るので自分の楽しみの再発見と行動範囲が広がる。

辺鄙な山里に住んでいようとパソコンネットを通じて自分の知りたい歴史、政治経済情報、科学、最新医療、や文化美術など洋の東西を問わず容易に入手出来る。

一例として、私は自宅(葉山)に居ながら京都新聞をネットで読む日課だが下鴨神社の広報活動が上賀茂神社より活発な様に見えるがゆい思いをさせられたり、国立公文書館公開の山城の国の時代別古地図を比較して見ると上賀茂神社が上鴨大明神や上加茂神社と記載されているなど不変と思われがちな社名一つとっても時代の流れを感じる。

パソコンにはもう一つ大きな利点、距離の遠近や通話時間を問わないネットを利用すれば安価なテレビカメラやイヤホン追加で映像送受信出来るし通話料金は格安だ。

同族会の会議が京都と東京で開かれているが会場の模様など地理的或いは健康を理由に出席出来ない会員向けにネットで映像音声同時に流せば相互に意見交換など臨場感と相まって親しみが得られより緊密な連絡と建設的なアイデアが生まれてこよう。

百聞は一見に如かず、先ずはパソコンに挑戦されては如何。存外簡単、何れにしても何か困った時にアドバイスしてくれる助っ人が近くにいると心強かろう。

注進雑記の内容は、高名な神道学の泰斗も賀茂社に関する簡にして要を得た基本的文献と折り紙をつけるように、美しい擬古文で綴られ、当時撰進に当たった祖先の該博な学識が秘められたもので、まさに賀茂研究の原典と称するに足るものである。口語訳と釈注の完成に向けて引き続き取り組んでいく。
昨年初からは同じメンバーで「賀茂

願います。
注進雑記の内容は、高名な神道学の泰斗も賀茂社に関する簡にして要を得た基本的文献と折り紙をつけるように、美しい擬古文で綴られ、当時撰進に当たった祖先の該博な学識が秘められたもので、まさに賀茂研究の原典と称するに足るものである。口語訳と釈注の完成に向けて引き続き取り組んでいく。
昨年初からは同じメンバーで「賀茂

関東支部より



▲熱心な会議風景 平成18年7月8日

支部長 岡本清孝

平成十一年一月、堀内保丸氏の呼びかけにより、関東在住者中七名で準備委員会を発足。約半年後の八月、九十一名中二十二名が参集し、第一回総会を開催。正式に関東支部が発足しました。爾来七年、毎年総会を開催しております。但し参集者の顔ぶれは高齢者が多数を占めており、次世代への継承が急務であるとの自

覚は各自が同様に認識しております。一昨年は賀茂の生い立ちのスライドを交えて会員にアツピール。また、昨年は藤木文雄氏を招聘し、「賀茂県主氏女性の群像」と題した講演を頂き、賀茂の歴史を学ぶ良い時間が持てました。今後の課題として次世代に賀茂の内容を伝えるには、まず親が賀茂の知識を確実に把握すべきであると心得、それに向かつてあらゆる確度から勉強する方針を立てております。

賀茂歴史勉強会だより

私たちの祖先が残した賀茂社と賀茂氏の歴史を顧み、埋没している故実を掘り起こすとともに、これらを次世代に正しく伝承していくことを念願して平成十二年末から同族の有志で活動をはじめた。

昨年末までの四ヶ年をかけて月例会で江戸時代初めの社司・氏が幕府寺社奉行の求めで撰進した「賀茂注進雑記」の講読会を続けてきた。第一「当宮本縁」から始め昨年末で第八「社領」

会 務 報 告

I 第42回評議員会(出席21名、欠席2名) 平成18年10月8日(日)

(1) 祖先祭に関する件

藤木常務理事より説明あり、次第内容及び予算案における質疑応答の上、例年通り実施することの全員の承認を得た。
従来配布の事業会計報告資料は「賀茂県主だより」やホームページ上で公表しており、配布を中止することの全員の承諾を得た。

(2) 社叢神山奉仕祭に関する件

開催日時:平成18年11月26日(日)11時30分
集合場所:上賀茂神社 西の鳥居前
参加者:会員有志及び会員の家族(中学生以上の男女)
この奉仕は同族会の作業奉仕であり、その後の祀りの意味は作業が安全に終了した報告とお礼の祀り、即ち奉仕祭であること。理事長を中心に同族会が実施することを全員が賛成した。

(3) 入会申込者承認の件

申請者:蔣池勇太氏
資格基準1号に該当、有資格者として全員の承認を得た。

(4) 平成18年度予算執行経過と平成19年度活動方針および予算準備に関する件(2007年の会務スケジュールも含め、検討)

- ・18年度の6ヶ月経過時点では、17年度と大差ない。しかし助成金収入の伸びがなく、ギリ貧状態である。
- ・19年度の見通しは「社叢神山奉仕祭」や歴史勉強会部門に費用が見込まれ、理事会において検討する。
- ・理事長より19年度課題検討順を合同事務局会議 → 常務理事会 → 理事会 → 評議員会とすることが提案された。

(5) 一般会員である合同事務局員選任の件

合同事務局規則第四条第一項に準じ、岡本清仁(留任)西池華子の2名を推し、全員賛同。理事会に諮る。

(6) 重文系図と賀茂古地図DVD頒布の件

在実記念行事の一環として頒布方法(会員及び一般)を考える。系図1枚、古地図1枚の2枚セット。次の理事会に諮る。

(7) 笠懸奉仕者依頼(毎年)について

平成18年度奉仕者10名にて奉仕

(8) その他

- ①法改正、法人組織変更と会費制導入の検討について
公益法人制度改革については、平成20年度中に実施予定
今後、当財団の方向性要検討
- ②評議員(含理事)連絡網
一部修正とEメール及び電話の連絡漏れのないよう確認をした。
- ③今井権宮司就任祝賀会開催の件
同族会役員による実施の詳細を決める方針(有志、費用個人負担)

II 第46回理事会(出席12名、欠席1名) 平成18年10月15日(日)

(1) 祖先祭に関する件

藤木常務理事より、18年度祖先祭の日程10月29日(日)式次第及び諸役役割分担等の説明に全員了承。

(2) 社叢神山奉仕祭に関する件

理事長より、第3回社叢神山奉仕祭の趣旨説明、日程及び作業実施要領説明。
作業終了後の奉仕祭の内容は作業が安全に終始した報告とお礼の祀りで、同族会が行うべきもの、従って御神饌の用意などの説明がなされた。(評議員会(2)参照)

(3) 入会申込者承認の件

(前評議員会(3)参照)

(4) 平成18年度予算執行経過と平成19年度活動方針及び予算準備に関する件

理事長より、平成18年度の補正の要否については、現状確定するに至っていない。
平成19年度には法改正への移行準備期間として、流動的要素を加味する必要あり、引き続き検討する旨報告あり、了承された。

(5) 一般会員からの合同事務局員選任の件

(前評議員会(5)参照)

(6) 重文系図と賀茂古地図のDVD頒布の件

藤木副理事長より、重文系図と賀茂古地図のDVD完成、更に重文系図の副本1巻を製作し、神社宝物殿展示案が示された。
重文系図/賀茂古地図のDVD2枚セットの特別頒布は新年度「県主だより」誌上で申込の募集をすることを全員賛同した。

(7) 法改正、法人組織変更作業について

今後7年の期間内に新組織を成立し、登記するべく作業を行う。

(8) その他

- ①笠懸奉仕者名簿を作成し、毎年奉仕を全員了承。
- ②評議員連絡網
(前評議員会(8)－②参照)
- ③今井権宮司就任祝賀会開催の件
(前評議員会(8)－③参照)

別雷神社嘉元年中行事」の講読に入り幹事による解読・釈注案を中心に現在四月分までを終えている。嘉元年中行事は平成十四年に国の重要文化財に指定された鎌倉時代末の神主井関経久が記した「経久日記・六冊」(通称賀茂旧記)のなかの一冊。一昨年祖先祭の講話で岡田精司博士も指摘されたように、平安時代以来の賀茂社の月例行事を記録したもので単に賀茂一社の記録というに止まらず、広く我國の失われた宮中行事や神社祭事・民俗の姿を復元するための亀鑑となる貴重な文献である。ただ、日記は一部を除いて未翻刻のうえ、殆どが美麗な連綿体の仮名文で記されていてこの儘では読解が困難である。講読は現在我々が平家物語などの出版物で見受ける漢字交じりの読み下し文に解読した上、これに注釈を加える形で進めている。単に賀茂世界に再現された宮中行事に限らず、賀茂社固有の色彩の強いいまは失われた行事の次第を浮かび上がらすものである。

メンバーは当初は高齢年者が中心であったが次第に三十歳代の世代の人々も加わって頼もしく感じている。月一度の土曜日京都産業大学同窓会館で開催する例会に奮って参加を待つものである。

(藤木文雄記)

アンケート実施についてのご案内

(広報チーム)

財団法人賀茂県主同族会はその設立趣意書に基づき、公益に資する法人として存在感を高め永久に存続してゆかねばなりません。そのためには同族会を構成する同族の皆様全員が何らかの役割を果たし、結束を強化して事業の発展に寄与する必要があります。

幸い先人たちのご努力により賀茂社や地元団体との関係も年々改善され、賀茂氏族の文化や文化財の伝承も広がりを見せております。また賀茂社伝統の神事、祭祀行事への積極的な参加は賀茂社や地元住民との一層の交流をもたらす、重文系図の展覧には多くの関心が寄せられております。

現在同族会では事業の一環としてチーム活動を重視しておりますが広報チームではその一例としてホームページを開設いたしました。

この機会に更なる同族会の発展に資するため同族の皆様からの幅広いご意見ご要望をお聞きして今後の事業運営に反映させたいと考えアンケートを実施することにいたしました。会員の皆様には次回の『賀茂県主だより』(平成十九年七月一日発行)発送時にアンケート用紙を同封いたしますのでご協力のほどよろしくお願ひします。尚記載要領などにつきましてはその時にお知らせします。

賀茂社各神事へのご奉仕募集

一、賀茂の競馬(五月一日足汰、五月五日競馬)乗尻等募集:

ご存知のように九一〇年間我々賀茂氏が伝承奉仕してきた競馬、今年もその乗尻を同族会内で募集します。馬術の初歩から安全に指導します。奮ってご応募ください。

二、曲水の宴(四月第二日曜)

童子募集:

今を遡る八二五年、平安時代末期に神主賀茂重保が始めた歌会です。衣文に身を包み曲水に流れてくる羽觴を詠み人の所へ竹竿で導く作業。応募資格は男子小学生。

(注)申し込み先:

山本武久常務理事

(Tel & Fax:

〇七五―七九一―六八一八)

平成19年会務スケジュール

[1] 会議予定(場所:賀茂社)

(1) 理事会:

- 第47回: 2月11日(日) 15:00
- 第48回: 6月3日(日) 13:30
- 第49回: 10月7日(日) 13:30

(2) 評議員会:

- 第43回: 2月18日(日) 13:30
- 第44回: 6月10日(日) 13:30
- 第45回: 10月14日(日) 13:30

(3) 合同事務局会議:

- 第61回: 1月14日(日) 10:00
- 第62回: 5月20日(日) 13:30
- 第63回: 7月15日(日) 13:30
- 第64回: 9月9日(日) 13:30
- 第65回: 12月9日(日) 13:30

[2] 関東支部総会

(日時:7月14日 or 21日)

[3] 行事予定(場所:賀茂社)

- (1) 系図曝涼: 7月29日(日) 10:00
- (2) 祖先祭: 10月28日(日) 10:00
- (3) 社叢・神山奉仕報告祭:
春季: 3月24日(土) 11:30
秋季: 11月25日(日) 11:30

参加者募集



▲第3回社叢神山奉仕報告祭 作業前、山頂で。



社叢神山奉仕報告祭
第4回(H19年)春季
(財)賀茂県主同族会

- 開催日時:平成19年3月24日(土) 11:30(雨天の場合は3/31(土))。
- 参加者:有志同族とその家族(中学生以上の男女)。
- 当日のスケジュール:
 - ・11:30 集合:社務所前鳥居前(各自昼食を終えておく)。
 - ・11:45 お祓い,本殿参拝。
 - ・12:15 開催挨拶及び作業概要説明等。
 - ・12:45 現地向け出発:タクシー分乗(ワンメータ)。
 - ・13:30 現地でのお祓い:磐座へ,奉仕者へ。
 - ・13:40 磐座周囲清掃開始:半径約50メートル範囲。
 - ・15:30 作業終了報告祭:注連縄張り(神社指導),奉告祭。
 - ・16:15 下山,ミーティング,散会。
- その他作業に関する要・注意点:当日説明。

編集後記

庭先には濃いローズ色の山茶花が寒気のなか懸命に咲き心を温めてくれる。鴨も群をなし活発に冬枯れの木の実に啄ばむ姿を見て楽しんだ。昨年末に風邪を引き少し寝ている間に冬の季節を味わった。

今年には法律改正に伴い同族会の在り方について根本的検討をしなければならぬ年になる。矛盾を感じていた点などが案外一挙に解決出来るようになるかも知れないと言う期待を持って皆様と一緒に考えてゆきたい。(神鴨子)